

## 子供の頃のお正月

平成28年1月

「光陰矢の如し」とは、よく言ったものだと思います。歳を重ねるにつれて、あっという間に年月が過ぎ去り、もう今の年齢！になってしまいました。

主人の転勤で東京に来て37年が経ち、娘達も結婚し、高2、中2、2才の孫達もすくすくと育ち、有難い事だと感謝しています。主人が小学生の時に無くなった両親や、結婚後、同居していた主人の祖母も、どんなにか天国で喜んでくれている事でしょう。

私は大阪市東淀川区で育ちましたが、お正月と言えば、小学5年生の頃、注文しておいたお餅（関西では丸餅）を、晦日の夜に、父と一緒にお米屋さんを受け取りに行ったこと、しんしんと寒かったけれど、帰り道の月がとても綺麗だったこと...等を思い出します。火鉢で母がお餅を焼いてくれた事も懐かしく思い出されます。

元旦には、母が編んでくれた姉妹お揃いのセーターを着て小学校に行き、校長先生や先生方のお話を聞き、紅白のお饅頭を貰って帰ってきました。洋服も下着も靴も、、、お正月に新しいのをおろして身につけました。今の人達には考えられないことですが、

それほど お正月は年の始まり、物事の始め、という特別な思い入れがありました。

午後には、十三（じゅうそう）の神社へ初詣に出かけました。お参りの後、沢山並んだ出店で、ワクワクしながら、貰ったお年玉でブローチや髪飾り等を買いました。

とてもウキウキ、ハッピー！でした。弟は、ちゃんばら用のおもちゃの刀を買いました。早速、風呂敷を背中にかけて「ちゃんばらごっこ」をし、妹と私は、追いかけて回されましたが、妹は気が強いので、いつしか逆に追いかけていました。（笑）

いつもは割烹着姿の母が、きれいな着物を着てお化粧をし、父も、母が縫った着物を着てカッコ良かったのも、今 思うと小津映画のワンシーンのようです。

普段は慎ましい生活でしたが、お正月には家族揃って晴れ着で1年の始まりをお祝いした事が、今でも忘れられない私の歴史の1頁になっています。

昔の思い出を大切に、この1年を良い年にしたいと思います。

古澤 昭子（戸田市在住）